

とよみたち

美肌通信



11月号

VOL28

小春日の好季、日光の山並みでは紅葉を迎えた
此頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて先月号では『乾燥肌のいろは』と題して
簡単に皮膚の構造を話し、乾燥肌の原因には角層
の構造異常及び機能異常が関わっていることを解
説致しました。

では、今回はこれらの異常を示す病態について解説
させていただきます。

乾燥肌つまり角層の異常を来たす病態で有名なの
は皆様ご存知のアトピー性皮膚炎、年輩の方に
多い老人性乾皮症になるかと思えます。

〈アトピー性皮膚炎〉

アトピー性皮膚炎は多様な原因・増悪因子が複雑
に絡んで発症します。その中の一つとして2006年に
海外から、多くのアトピー性皮膚炎患者にフラグリン遺
伝子の変異が見つかりその結果角層のバリア機能
が不十分になり発症するということが証明されま
した。

ここでおさらい「フラグリン」

先月号の図を参考にして下さい。皮膚は3層構造に
なっていると言いましたが、その最上層には表皮があり、

更に表皮は4つに分かれ 下から 基底層, 有棘層, 顆粒層, 角層となります。表皮の最上層は角層なのですが、いわば「良い表皮」とはすなわち「良い角層」のことであり、良い角層を作るために先に述べた3層が存在するといって良いでしょう。さて、フィラグリンとは、顆粒層細胞内に存在しケラチン繊維を引き締めて固める働きをしています。その結果、細胞全体を平たく扁平化し硬くさせより強固な細胞を作り皮膚のバリア機能を担っています。

あるデータによると日本人アトピー性皮膚炎患者の27%は生まれつきフィラグリンの機能に異常があるといわれています。つまりその結果、良質な角層が十分に作れないために皮膚のバリア機能が破綻し、そのために水分の喪失及び乾燥が惹起され更には外界からの刺激が皮膚内に伝わり易くなり痒み(itch)が発生しその結果掻く(scratch)行動が起こり更には炎症が合併し(これをitch scratch cycle といふ)慢性の皮膚炎が継続することになるのです。

< 老人性乾皮症 >

欧米の報告では65才以上の80%に、日本では60才以上の95%に「乾皮症」を認めるというデータがあり、こうなるともはや「老人性乾皮症」は病態というよりはむしろ“生理的老化現象”の一つとも言えます。しかしこれはただ皮膚が乾燥しているという事に留らず、多くの場合二次的に痒みを伴い湿疹を合併するので、外用剤を用いた治療が必要になってきます。では、高命になるとなぜ乾燥するかというと、以下の原因があります。

① 角質細胞間脂質の減少。

角層の細胞と細胞の間で細胞同士を繋ぐ接着剤的な役割りを以て保湿やバリア機能を有している角質細胞間脂質はセラミドに代表されますがこれが高命者に有意に減少していることが分かっています。

② 天然保湿因子の減少

アミノ酸を主成分とした天然保湿因子が角層の細胞内で減少している。

③角層構造の変化

本来脱落すべく角層が脱落せず"に厚く残っている。残ってしまう原因は新陳代謝の低下によって皮膚(表皮)のターンオーバーが正常より延長してしまうため。

④環境の影響

外気の乾燥 暖房による湿度の低下など。これら①～④が複雑に関係し、「昨年までこんなことはなかったのに急に今年の冬から症状が出たのよー!」と患者様は訴え皮膚科に来院されるのです。しかし、その皮膚を診ると、その角質を含めた表皮には、必ず「乾燥(乾燥症)」が存在するのです。

今回は乾燥肌を起こす病態の原因について解説致しました。次回は乾燥肌の対処法について話をさせて頂きます。

院長: 川村 梓